WASON
HQ
1104
J74+
no. 382

明治十八秊初刊

# 女學雜誌

每週土曜日發兌

第三百八十二號

要目

## 時論四則

◎條約厲行に消極積極あり
◎議會本來多望を囑すべきに非す
◎鐵道の大打破軍
◎實業教育の補助

## 南洲遺訓

第二回女子夏期の爲に警告す
名士の患は閨房と庖廚に存す

幼兒家庭教育の原理（若松賤）
幼稚園多くは無用也（女學欄）

女性と俳諧　秀野

接吻の初め　蘭女

明治二十七年六月二日發兌

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.
(JOGAKU ZASSHI.)

# 第三百八十二號目錄

社說
第二回女子夏期學校の爲に警告す
名士之思存乎閨房及庖廚

論說
女性と俳諧（秀野）

文しらべ
西郷南洲翁遺訓

家政
幼兒家庭敎育の原理（若松しづ子）

女學
西洋風女子敎育（中）
女學の管理は東西根底を相異す
幼稚園は無用の事多し

書架
女四書
三百諸侯（二卷）
古今史譚（第五卷）
信仰之道
銀婚式賀章
小說百家選
四人の人
あさせの波第二編

時事
條約勵行に消極積極あり
議會本來多望を屬すべきものに非ず
鐵道の大打破軍
實業敎育の補助

交詢
養蠶科普通敎授の問（信州一養蠶士）
右へ答

雜錄
接吻のはじめ（閨女譯）

片々
學齡兒、修學不修學の男女比較
女子師範學校は大嫌ひ也
貧民の統計

時報
女敎員の增減○工女卒業○高木女子職業學校○裁ち縫ひ唱歌○婦人養德會○奇特な婦人○婦女の鑑○廢娼請願書の提出○荷物にはあらで婦人なり○巖本善治氏○仙臺の演說

通信
第二回女子夏期學校準備の報告

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

第三百八十二號

明治二十七年六月二日發兌

## 社說

# 第二回女子夏期學校の爲に警告す

去年晩夏、横濱に於て開かれたる第一回女子夏期學校は、幾多の掛念と、四方の疑悶との間だに優悠成功し、望外の良結果を奏したり。爾來、女子夏期學校なるものは、勢力ある一組織として認目せられ、當年、その第二回の開設に對しては、諸人深く望を囑する所ろのものあるが如し。

繼續委員、及び、京濱間同盟女學校が撰出したる代表委員は、近月二回相ひ會同し、周密にして熱實なる準備の規摸を議定したり、此回や、東京府下に於て開設するの故を以て、準備並らびに庶務上の責任は、主として京濱間の各女學校に於て負擔すらく見ゆると雖ども、元來女子夏期學校を設くるの精神は、國家的なるべし、限つて之を一地方の事業となすにあらざるべし。故に、邦内東西の同人ともに力を協せ、合成したる一大女學校の下に相會同して、精神上の洪益を一致同盟の衷に吸入せんとするとは、確かに其期望中の最大要素なるべし。左れば、京濱以外の地方にある同志諸彥と雖ども、亦た之に對して相劣らざるの同情加勢を寄せられんと無論なりとは思はれたり。

然りと雖ども、精神は寓するに形を要し、感情は露はすに事を要す。女子夏期學校をして、國家的たらしめ、其の同情を邦内四方に請けんとせば、學校の設計今ま一段洪濶ならずんばある可らず。若し夫れ資金不足の故を以て此の希望を達すると容易ならずとするも、其成し得べきの區域に於て、此希望を現實にせんとは、敢て至難なりとすべからず。

例せば、講師招聘の事の如き、少なくとも二三氏は、之を關西地方に求めずんばある可らず。又、すべて地方來の女生に對しては、出來得べき限り、便利と特別保護とを與へずんば



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ある可らず。吾黨が希望を在躰に表白せば、來歳第三回の女子夏期學校は、之を西京に於てし、博覧會を利用して一層盛大たらしめんことを欲す。もし幸ひにして此の卑見用ひられ學校果して西京に於て開かるゝこととなりたりとせば、關東及び東北の有志者は、踵を揚げて佇望し如何にもして此に臨會せんことを欲するなるべし。此時に當りて行路遠隔の不便が如何に折角の篤志を減殺するやを推想し、方に地を易へて今歳の地方有志の爲めに掛念し、只管ら來會者の爲めに便利を供へんことを希望して止まざる也。

夏期學校に向つて大ひに望む所ろ二つあり。曰く、國内女子教育者の會談、一也。曰く、女學生間普及の氣風を養成すること、二也。」會日、十日に過ぎず。相見る半月に及ばず、もし時日を以て算すれば、些細にして何の大なる影響もなきかの如くなれど、天燃え、地燥き、精神自づから懶慢たらんとするの節、樹木欝蒼たり、校舎快豁たる、適宜の會場に相會し、天下の同志は所懐を交通し、全國女生の拔粹は相ひ睦み、以て女子教育全躰に關するの輿論を確かめ、以て女生一般に及ぼすべき氣風を陶冶せんには、夏期學校なるもの丶効驗けだし驚ろくべきものあらんとす。吾黨は之に熱望を囑すると決して過當にあらずと信ず。

## 二

方今我國進歩主義の女子教育が、世俗普通の觀念に對するや、恰かも大巨患敵に向つて戰を擬するに似たり。多くの抗艱を要することあり、幾回の决死を要することあり、眞とに是れ革命維新の義戰に臨んで敢て獻身犠牲の奉公を爲すべき者なるが故に、同志類黨の連合結盟を要するもの亦た至つて多き也。之を如何んぞ、小異に捌れ、細疑に反きて、互ひに大事を忘却すること、太平無爲の閑々時節の如くなるべきやは。

語ばを寄す、四方同念の諸君、吾黨は、今や女學の大時節に際會せり。肩上に一大事業の責任を負へり。何の餘裕ありてか、懶怠し、畏縮し、退譲することをかせん。進むべし、戰ふべし、而して必勝を遂ぐべし。是れ、吾黨同志が、何如なる場合にも、大ひに連合同盟すべき所以にあらずや。是れ、吾黨同志が連合同盟を助成すべきあらゆる方便を看過すまじき所以にあらずや。女子夏期學校の如き、眞とに一大好方便、一大好機會を呈すべきものとす、諸君に警告して其の熱切なる同情を要むるは、則はち之が爲め也。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

# 名士之患存乎閨房及庖厨

名士が患ひは、閨房と庖厨とに存す。而して、閨房を潔よくし、庖厨を整ふるの任は、佳人が掌中に存す。

若し、今の政治家の庖厨をして、今少しく整理せしめ、玆に冗失する魚肉をして、今少こしく倹約せしめんには、或ひは、官に獵りし、或ひは、内閣に乗入らんとするの野心は、今少しく減ずべきに。黄白の需要、竈煙と共に立昇り、榮華の肉慾、飲食と共に進歩して、不足は足らんことを要求し、足らんことは貪ぼらんことを命令し、政界の騒動、遂に庖厨の邊より醸生せずと云ふこと稀れなり。

又若し、今の政治家の閨房をして、今少しく純潔ならしめば、其風采は、今少しく優美に、其氣力は、今少しく凜烈に、其悟樂は、今少しく高尚にてあるべきを。牝牡、大道に相ひ戯むれ、獣慾白晝に猥亂し、劣等陋醜の快樂、四面に濁々として充満す、如此き姦淫の民、如何にして、猛烈なる正義に断行することを得んや。

嗚呼、閨房にして、潔よく、庖厨にして、整はゞ、邦家の大憂は、過半、消滅すべし。今の如く華奢なることもあるまじ、今の如く柔弱なることもあるまじ、今の如く貪ぼることもあるまじ、今の如く騒ぐこともあるまじ。

名士半途の失敗も亦た過半は、此の二大患に陥いりたることに由る。多望の年少が、如何に俄然として壮勇に挫け、又、雄志勃々たる烈士が、如何に忽然として公社會より隠没するか。其源由を察すれば、悲しむべし、過半は此の二大患を遠ざかること能わざりしに由る。

嗚呼、閨房や、戒しめざる可らず、庖厨や、愼しまざる可らず。極めて小事なるが如くして、國家の大事此に決すること多し。大人之に關せざるが如くして、豪傑の士、此によりて生死すること多し。吁、婦人の賢なると愚なると、潔なると汚なることは、則はち國家を盛衰せしめ、則はち大人を生殺す。此故に、國力を察するものは、其竈煙に望み、人才に鑑みるものは、其室家に慮ばかる。大丈夫、當に大ひに此の二事に戒しむべし。佳人、當に切に此の二事に愼しむべし。

方今、國家の患ひは、此の二大患に存す。政界の騒がしきと、政士の決せざると、亦多くは此二大事に源由せり。

## 論說

# 女性と俳諧

（其二）

秀野

われ三日四日以前より芝浦に寓を移しぬ居は狹しといへども身にまとふ絆はなし大の字なりに横臥して肱を枕として心のまゝにねむる華胥の境に厭きて起つて窓を押せば品川沖の眞帆片帆白鶴の羽をのしたらむ如く若き松の木越しに隱見すゆくりなく轟々として駈け來る京濱間の汽車のすさましき響に水禽の驚かされて青空に翔けるさまおもしろく藥を吞むで遙かに白雲の淡紗を纏ひたる房總の諸山と相顧みて迭に微笑をもらす快絕壯絕病惱海風にぬぐひ去られてこゝちいとすがすがし去つて前庭を顧みれば芝生青々としてあしたの露をふくみ古池のうち小舟ゆくにまかせ小き魚の影藻草の間にあざやかなりはるかに芭蕉が深川の草庵を追想し句集を繙きて一句また一句讀みゆくがまに〱興滿ち感極まりなく彼れに思を馳せこれに情を寄せてすゞろに加賀の千代がことを想ふ隨て思ひ隨て筆すわれを縛するの則なければ心のびやかに興つくるときなく書いつけたる紙面文字みだれ意ほしいまゝにして讀みわけがたきも一興なり。

わが先きに『俳諧史傳』を著すや人ありわれを目するにエセ俳諧師を以てし穀つぶし無氣力の外道と罵しりぬ今またこゝに文學を談じ俳諧をいはゞかれはた何とかいかむかゝる輩ともに文學につきて彼此いはむは益なき業なれどわれを以て全く文學の人とせむはわが常の心に違ふて痛からぬ腹さぐらるゝの想なきにしもあらず然れどもわれは答ず胸中別に『我』あればなり。

文學とは何ぞやこれを嚴かにいひあらはさむとすればこそ論理的に釋義せむとすればこそさま〲なる異論も出づれはたいろ〱に意見の衝突も來すなれ文學とは人情の上に咲き香ふ花なりといはむに何れかは否まむやうのあるべきや。

人に涙あり悲しみ極まりて泣き喜び極まりて泣く樂しみて笑み憂あれば喞つ思内にあれば必ず外にあらはる詞發するとき文となり章となる春の花に歌ひ秋の月に吟ずこゝに於てか詩あり歌ありそれ人に温き血ありこまやかなる情あり此血時に



Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

天空に漲りこの情ときに滄浪を捲く生ける人に情なからむや情ある人に文學なかるべけむや。

女性の情はこまやかなりその感はいとあざやかにまた深くして激しきものありこの故に女性の文學界に輝かせし名譽はいと〳〵澤なりわが國に於て紫式部清少納言をいふも管なれど和歌ものがたりには女性がそのめでたくうるはしき筆の雫につきせぬほまれをとゞめたるものあげて數ふべからず。

連歌一轉して俳諧連歌となり再轉して俳諧發句となる松永貞德出で西山宗因出で松尾芭蕉出で俳諧榮へ茂るやその詞は雅俗をきらはずその詩想いとひろくのびやかなる天地に逍遙すこゝに於てこの道に入りしもの多きは驚くばかりなりき而も女性のこれにたづさはりしはいと〳〵稀なり。

　鳴にさへ笑はゞいかにほとゝぎす

の名句ある伊勢の美津女十三歳の妙齢にして

　井戸端の櫻あぶなし酒の醉

なるあやしきまでに妙へなる句を吐きし江戸の秋色女また

　我年のよるともしらず花盛

などの句ある近江の乙州が母智月尼

　思ふとなき顔しても秋の暮

などの句ある捨女心男々しくして學殖深く

　鼻紙の間にしぼむすみれかな

　あるほどの伊達しつくして紙衣かな

など幽麗きはまりなき句を吐きし園女などの外は先づ加賀の千代女などこそこの道に譽をとめし女性ならめ。

これを思ふに俳諧が女性の間に行はるゝこと多からざりしは德川時代に於ける女性が他の文の林にもかゞやきたる名のなきと均しくあまりにじみにあまりに浮世めきて美の世界に遊ぶもの少なかりしと俳諧は茶の湯生け花とひとしなみに世捨ひと風流人のもてあそびと見なされたるによるものならむその俳士の名高き際は多くは世の榮華にそむき塵うちはらふて昂然として我れ獨り清しと爲し放縱不羈となり閑居幽棲となる當時の俳界多くは女性にはふさはしからぬうら枯れはてゝものさびたるを尊びしにもよるならむ。

俳諧豈にひとり閑寂を旨とするものならむや華麗櫻花の如きも可なり清朗明月の如きも可なり何となれば俳諧は詩なればなりその胷裡最も廣濶なる詩なればなり今の女流の方々折にふれてこの道を味ひ給はゞ思ひ半にすぎむ。





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

豪宕なる園女純潔なる智月尼幽麗なる捨女優婉なる秋色女何れか閑寂を躰とし玄妙を競ふの俳諧壇にやさしくうるはしき女性の特相を顯さゞるはなし而も加賀の千代が名のしらぬ火の筑紫のはて鯨吼る北の海の岸にもひゞきわたるに及ぶはなけむ芭蕉其角が名句を知らぬきわも

朝かほにつるべとられてもらひ水

しぶかろかしらねど柿のはつちぎり

などの句を知らざるは稀れなりわれ弱冠にして郷里にあり夏のあした朝疾く起きて家のうしろの古りたる枇杷樹の畔なる清き井の水をくみて顔を洗ふ涼氣胸に徹して睡魔頓に去る見れば露をふくみし朝がほの花の色したゝらむばかりなるが緑の蔓夜の間に生ひ茂りて井戸端にからみつきたるさま幼心にもいとうつくしとながめ入りぬこの時卒然背後より皺枯れ聲高く千代が朝顔の句を誦し二たび三たび操りかへしてわれにその妙を會得せしめむとしたるはわが家に年久しく仕へたる老爺なりきその時われはその妙のいづこにあるかを知る能はざりしかどこの一句は小やかなるわか腦底に刻まれて永く印影をとゞめたりきこの老爺はこれ一木強漢土を耕し獸を獵す



ることこそ巧なれもとより目に一丁字なきものこの句の趣味の如何にかれが粗末なる腦裡に映ぜしかは知るよしなけれど鄙も都も俳諧知らぬともがらまでこの一婦人が風流をしたはぬはなく幾代の後にも香しき語り草となりてその詩才を愛でその風采を心のうちに描き轉々傾倒に堪へざらしむるは驚くべきにあらずや。

凡そ平常閑居事なきの時は人の性僻もの〻うらに埋まれてそれと見わけがたきふしあれど吐嗟の感刹那の情電光の如くきらめき來るの時いかでか蔽ひ隱れてやむべきやかの和歌はむしろ巧緻を尊ぶその詞は直にわが感想を洩出するといふよりもむしろ心をこめてやさしくあらはさむとし思をひそめて姿形をつくらむとするのさまありそのはじめに於てはともかくも後の世に至りてこの傾きあり〳〵と見へいやが上に高まりたる跡著し。

俳諧はこれに反してむしろ直截なり詞はこれ平易情はこれあざやかなりもの一たび來りて我感を打つや鏘として聲あり燦として火花はゆく一句たちどころに吐露し來り一の蔽ふところなくまた一のかざしあるなしかるが故に和歌に於てあ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

らはれぬ特性も俳諧には明かに見ゆるふしも多からむ千代が句集を繙き讀めば清素純潔なる女性は活き〱としてまなこに髣髴たりほがらかなる目皆人に嬌ぶるのさまなくことさらめかで愛らしき紅唇微動して氣輕にほゝと微笑むさま見ゆ。今千代の人となりを見むがために拙著『俳諧史傳』の一節を引用せむ。

千代女は加賀の人女流俳諧の名家にしてその濃密婉曲なる俳句は嘖々として人口に膾炙し今日に至りても如何に不風流のやからなればとてその朝顔、初ちぎりの句知らざるはなし園女と相並びてわが俳壇の双美と稱せらるかの女幼にして風流の志あり支考に學び後盧元坊に學びぬ福岡氏に嫁して間もなくその夫に歿せらるゝや尼となり專念俳諧の境に逍遙す妙へなる句はものにふれ事に逢ふてゆくりなく彩霞を吐きぬ彼女は俳句に於て尊敬欽仰すべき價値を有するのみならず淑良温和なる人の妻女として艶麗なる美人として閑雅なる詞工として永くわが閨秀の摸範たるべきものあり安永四年九月八日うるはしき俳句のかたみあまたを世に遺して寂然として歿しぬ年七十有四。

千代が句は姿心ともにやさしくうるはしいさゝもくねりたるふしなくすら〱とかろくのびやかなり些の邪氣なく些の粗豪なしこれ女性なればなりひがめる心露ばかりもなく氣いと輕き女性の句なればなり。

辛亥歳旦

一夜寢てかのといとし今朝の春
おそろしや高いところに鳴ひばり
晩鐘のつり合もよき柳かな
朝がほの地に咲事をあぶながり
早乙女や若菜摘たる連もあり
夕顔や女子の肌の見ゆる時

かのといとしとさいやき高く鳴きあがるひばりのおそろしとことばがり朝がほの心くみわけ柳を鐘にとりそへたるなど詞すなほにして女子めきたるばかりならでいと〱無邪氣にやさしき情春風の如く吹き渡るを覺えずや。同じくこれ一朶の花これを描くや或は淡麗或は清婉或は華美なり均しくこれ一痕の月或は物凄くもなり或は朗らかにもなり或は寂び或は冴ゆ千代が景を描くの筆はなよやかにしてい





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

とめでたし、

明ぬれどいよ〳〵白しはつざくら

春の曙の風情はかくありなむ

花は櫻まとの雲は消にけり

といふも同じき心ならむ姿相似てうるはしき二句ありいはく

若草や駒の寐起のうつくしき

駈出る駒も足嗅くすみれかな

一はわざとめかで自然にうちまかせてうるはしく一はすみれに香を放たせ駒に情を寄せて巧めりいづれも女性としてなつかしき思なくばあらず。

## 文しらべ

# 西郷南洲翁遺訓 （一）

（一）。廟堂に立ちて大政を爲すは天道を行ふものなれば些とも私を挾みて濟まぬもの也いかにも心を公平に操り正道を蹈み廣く賢人を撰擧し能く其職に任ゆる人を擧けて政柄を執らしむるは即ち天意也夫れゆゑ眞に賢人と認る以上は直に我が職を讓る程ならでは叶はぬものぞ故に何程國家に勳勞有る共其職に任へぬ人を官職を以て賞するは善からぬとの第一也官は其人を撰びて之を授け功有る者には俸祿を以て賞し之を愛し置くものぞと申さるゝに付然らば尚書仲虺之誥に德懋んなるは官を懋んにし功懋んなるは賞を懋んにすると之れ有り德と官と相配し功と賞と相對するは此の義にて候ひしやと請問せしに翁欣然として其通りぞと申されき。

（二）。賢人百官を總へ政權一途に歸し一格の國體定制無ければ縱令人材を登用し言路を開き衆說を容るゝ共取捨方向無く事業雜駁にして成功有へからず昨日出てし命令の今日忽ち引き易ふると云樣なるも皆統轄する所一ならずして施政の方針一定せざるの致す所也。

（三）。政の大體は文を興し武を振ひ農を勵ますの三つに在り其他百般の事務は皆此の三つの物を助るの具也此三つの物の中に於て時に從ひ勢に因り施行先後の順序は有れど此の三つの物を後にして他を先にするは更に無し。

（四）。萬民の上に位する者己れを愼み品行を正くし驕者を戒



Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

め節儉を勉め職事に勤勞して人民の標準となり下民其勤勞を氣の毒に思ふ樣ならでは政令は行はれ難し然るに創草の始に立ちながら家屋を飾り衣服を文り美妾を抱へ蓄財を謀りなば維新の功業は遂げられ間敷也今と成りては戊辰の義戰も偏へに私を營みたる姿に成り行き天下に對し戰死者に對して面目なきぞとて頻りに涙を催されける。

(五)。或る時幾歷辛酸志始堅丈夫玉碎愧甎全一家遺事人知否不爲兒孫買美田との七絶を示されて若し此の言に違ひなば西鄕は言行反したるとて見限られよと申されける。

(六)。人材を採用するに君子小人の辨酷に過ぐる時は却て害を引起すもの也其故は開闢以來世上一般十に七八は小人なれば能く小人の情を察し其長所を取り之を小職に用ひ其材藝を盡さしむる也東湖先生申されしは小人程才藝有りて用便なれば用ひざればならぬもの也去りとて長官に居へ重職を授くれは必す邦家を覆す者ゆゑ決して上には立てられぬ者ぞと、

(七)。事大小と無く正道を蹈み至誠を推し一事の詐謀を用ゆ可からず人多くは事の指支ゆる時に臨み作畧を用て一旦其の指支を通せば跡は時宜次第工夫の出來る樣に思へ共作畧の煩ひ屹度生し事必す敗るゝものぞ正道を以て之を行へば目前には迂遠なる樣なれ共先きに行けば成功は早きもの也。

(八)。廣く各國の制度を採り開明に進まんとならば先づ我國の本體を居へ風敎を張り然して後徐かに彼の長所を斟酌するものぞ否らずして猥りに彼れに倣ひなば國躰は衰頽し風敎は萎靡して匡救す可からず終に彼の制を受くるに至らんとす。

(九)。忠孝仁愛敎化の道は政事の大本にして萬世に亘り宇宙に彌り易ふ可からざるの要道也道は天地自然の物なれば西洋と雖も決して別無し。

(十)。人智を開發するとは愛國忠孝の心を開くなり國に盡し家に勤むるの道明かならば百般の事業は從て進歩すべし或は耳目を開發せんとて電信を懸け鉄道を敷き蒸氣仕掛けの器械を造立し人の耳目を聳動すれども何に故電信鐵道の無くて叶はぬぞ缺くべからざるものぞと云處に目を注かす猥りに外國の盛大を羨み利害得失を論せず家屋の構造より玩弄物に至る迄一々外國を仰き奢侈の風を長じ財用を浪費せば國力疲弊し人心浮薄に流れ結局日本身代限りの外有る間敷也。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

家政

# 幼兒家庭教育の原理

米國幼稚園專門家リン夫人述。若松賤子。譯

御承知の通り米國邊では「母親會」なるものが有つて、子女を持てる母親は折々相會して子女の躾に付て互の經驗を語り會ひ、困難なる問題に付て討議し、又時としては幼兒教育に熟煉なる人を招じて其話しを謹聽するとか有升、左に譯し升たものは或會に於て演説されたる話しです。

此問題は一二時間の限りの中に迚も述べ盡す可きものでムませんから、巨細には申し上げず、只幼稚園教育に從事する者が採つて事業の指南とも規矩ともする處の原理の大なるものを述べ、何れの點にても御質問を頂き升れば、及ぶ丈のお答へは致す積でム升。

第一に申上升が、私どもは子供を觀るに殊に法のつかぬ邪惡の塊りで、到底撲つて直さねば善良に改まらぬ者とは致しません。何れかといへば、種々雜多の種子を含くんだ田畑の樣なもので、何れの種子を培養して育てるか、何れを餓し衰へさせて喪なさうかといふ點に於て撰擇し、且つそれを實行するのが即ち私どもの役目でム升、ピーチヨル先生が、或時、申されたとが有升。嬰兒は眼に見へぬ墨で色々の記錄を載た白紙の樣なもので成長するに隨つて出逢ふさま〴〵の事情が火になつて炙て記した文字を明らかに見得る樣に顯はすといふとでした。此言葉は大に當つて居る處がム升て、愛といふ温和なる熱は美しく床しい文字を其白紙の上に現わし、怒りといふ激烈な熱は黒く醜き跡を紙切に殘すとが有升。子女を持てる兩親の中には幼兒教育といふとを以つて、專制政治と心得、特に子供の意旨を挫くも、子供の嗜好、傾向などには一切頓着なく、どふでもかふでも我意に從がわせよふと強ふる者が有升。幼稚園教育者の主眼とする處は之れに反して、なる可く子供に強情を張るまでに至らせず、いつも好んで命ぜられたとを爲す樣仕向くるとで有升。意旨を挫くとは最も面白からぬ教育法です。さま〴〵誘惑が起つて、各自これと戰ひ打勝つ丈の氣力を蓄へなければならぬ世の中ですか



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ら、意旨はなる可く養つて強壯にして置ねばなりません、たゞ其意旨がいつも正義の方に向つて雄進する樣に平常鍛錬して置なければなりません。私どもの目的は意旨を成丈強壯にすると共に、理性の教導を勉めて、意旨の行處には誤るとなき覺悟が必ず伴ふといふ樣にせねばなりません。

我が意と子供の意を相爭ふに至らする親は甚だ賢からぬ人と言ねばなりません。此頃或婦人が友人の家を訪問致し升た。此家の息子は兩親の自慢もので有ながら、親子ともいつも強情の張競をして居り升た。訪問の間に息子が偶然に室には入つて來たので、先づ早速、客に紹介致され升た。それから父が命じ升た「坊や、こゝへ來てとうさんの膝の上へ腰をかけておいで!」息子は其命に應じませんでした。そこで其兒の意旨強制方に十分といふ時間を費し、其結果はどうだといふと、客は不快を催す、母親は耻しがる、爺は焦〱する、子供は強る、さうして混雜した丈の出來榮は一ッも見へませんかつた。然らば命令を背いても打捨て置可でせうか!一躰其命令に理由が有ません。大方子供は其命令が餘り成人氣なく、我雄々しさを減ずる樣に感じたかも知れません、それ故、反對に及んだのでせう、恰い親ならば、爭ふまでもなく事を靜め、嚴然と命令を下す時にはもそつと理由のある場合を擇び升、さうすれば親の威嚴を示すにも、躾けをするにも餘程便利が多いことです。

それからまた、私どもは子供の志望を遮り、取り去つてしまひ乍ら其代りに何もあてがはぬ爲に非常に子供を焦立せるとが有升。神經質の母親は子供に跳びかゝつて、手に持つた鋏を引たくり、「おまへそんな物持つて盲目になるよ」と呼び升、間もなく、子供がまた小刀を探し出したのを見て、「ソラ又小刀を見つけて怪我をしようと思ふんだ子、悪戯ものが!」と怒鳴り、さて子供が寶と大切にしたものを奪ひ去つて、他へ心を轉ずる樣には聊か工夫致しませんから、子供は腹を立てだたをこね、さうかふする中又も意地になつて今度は本當に悪戯を始め升。子供は自然に研究を好むもので、始終新たなる者を發見にかゝつて居り升。それで母親がいたづらと名をつけるとは取りも直さず子供の學問で、自分がどの位力が有つて何か出來るものか、天然にはどの樣な妙不思議が匿れて居るかといふ處を探見して居るのです。それ故斷りもな



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

く亂暴に研究の種を奪われたのは、たとへば、母親が手に持つ仕事を始終他人に取あげられて、其代りを與へられないと同然、憤ふるは少しも無理でムません。危い鋏を持つて子供の遊ぶのを見升たら、母親が慌てず、徐かに「嬢や、其鋏を見つけた處へ置いて來たら、かあさんと一處に縫物させて上るよ」とかお勝手させて上るよ」とか申し升たらば、それこそ悪しきものに代ふるに善良な物を以てするので、子供をちらす處はなく、「幼兒の働力を挫かず、之を轉ぜよ」といふ幼兒敎育の原理にも適わせるのです。それで尚一層賢なる策ならば、餘り鋭からぬ一挺の鋏を購ひ遣し升て、これは子供が保存す可き所有品と定め一ッには幼兒に從事す可き業を授け、二ッには、所有品の保存法を敎へ、三ッには其自尊心を增す様に斗らふことです。子供の自尊の觀念を養成するといふことは中にも大切なことです。私どもは自分の威嚴を子供が侵さぬ様非常に心配致し升が、子供の威嚴を重んじることに付ては容易に心付ぬ者です。たとへば、他人の前を憚らず冷淡にもてなしたり、侮辱しめたり、叱り懲したり、物事に迂遠な廉を笑つたり、万事其望む處に逆つて阻め升てさて其擧句に、なぜ子供が柔順に成長せぬかと怪しむのでわり升。

子供が自然に正當なると、善良なることを愛して、我から柔順に服從す可き者に從ふ様工夫を凝らすには中々忍耐も覺悟も知識も入用で、撲なり、こずくなりの無理なる方法をとつて腕力沙汰の服從をさせる方はどれほど容易かわかりませんが、其方法の難い方が終局へ行つては非常に得策なることは經驗ある人のよく知る處です。斯様の故を以て、私ども「母親會」などのお催しを大に賛成いたし升。幼稚園敎育は如何に完全で有つても、家に有る中或は猫可愛がりをされる合間々々に、馬鹿の如く、謀反人の如く、厄介者の如くに言のゝしられ、取扱かわれ升ては、折角善良の方に導く學校敎育は全く家庭敎育に打消さるゝ耳か、恐しき結果の方が却つてあとに殘り升。世の母たる人、父たる人にして、幼兒敎育を任せられたる己が職分の貴く重きことを充分悟り、其成功と失敗は己が賢愚の評定所なることを思ひ升たらば、普通の家庭敎育にまで曲ねらすとや、惑させることはなからうと考へ升。子供の怒ると、無禮なると、不正直なること不作法なることなどが敎育の過ちでない例しは殆んど皆無と思われ升。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

幼兒教育の原理を一言に申し升れば、躰、智、德の發達を適宜、平等に指揮し、幼兒普通の動力を導きて許す可く嘉す可き區域に誘ふと、並びに幼兒が、示さるゝ所に悦こんで行ふ樣其意旨と希望とを獎勵するとです。

## 女學

# 西洋風女子教育（中）

### ○女塾の管理は東西根底を相異す

余は歐米の女學校の寄宿舎を見たるとなし。然れど、其管理法は、根本に於て我國の女學校に於けるとは相違すべしと見込を立て居る也。歐米人は、社交と獨居とを區別し、極めて自由に交際すると共に、甚はだ固く獨居の仕組を設け、生計の根底を個人的となす。子供の時より、定まりたる部屋を與へられ、豫算に隨がつて小遣を與へられ、夫相應の所持品を與へられ、他人猥りに手を着くるとなし。故に、其談話交際する所ろを見れば、自由開豁にして渾然共存、いつも万事に合同するが如けれど、實は、個人的なり。一家の内にも、多くの小さき家(室)ありて、相ひ妨たぐるとなし。相ひ集まつて談話するにも相合して交際するにも、皆不文の條約の如きもの自づから出で來て、一定の時刻なるもの限られたり。万事如此くなれば、女學校内の塾舎も、各室自づから一個の態を爲し、各生實に一個の獨立個人にして、銘々自から責任を負ひ以て自から治むるの氣風あるとなるべし。

然るに、我國從來の風俗は、全く之に反し、すべて個人的の基礎なくして、族制的なり。万事一人獨立するとを許さずして、家族として共同す、共同の名美くしけれども、啻に美くしきのみにあらず、實は族人皆な族長の意見の中に吸入せられ、之に合して個人的の權能を消すとあり。此の根本の影響は、習慣、氣風の末々に迄であらはれ、家内万事共同にして、室と室とは敷居伏間のあるのみなり、毫も區別なし、一家は、即はち一面の大廣間に似たり。隨がつて、起居、坐臥、出入、談話、身のまはり、所持品、何れも定刻な



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

く、限界なく、區域あるとなし。此の習慣の間に久しく成長したる女學生は、塾に在ても、亦た個人的に身を處置すると能はず、彼我自他の區別判然たらず。もし判然と區劃すれば、不心切のようにもあり、餘り規帳面にすれば、不人情のようにもあり、習慣は一大道德となりて、自然に彼等をして、共同的、混淆的とならしむる也。

左れば、西洋の塾舍と、日本の塾舍とは、管理法の着眼、其根底に於て相違ふのみか、管理の難易も亦た同日の比ひならず。況んや、塾舍の建方、室の割り方も亦た相異なり、而も、煉瓦石づくりの人聲をもらすとなく最と靜かになり易きと、木造の兎角聲をもらして自から騷々しくなり易きと、何れか皆な東西女塾の氣風を相異せしむるの種ならざるべき。

## ○幼稚園は無用の事多し

幼稚園は、素と、貧乏人の子が、世話しき母に棄られて家庭の教育を毫も授かりがたき慘狀を目擊したる人の慷慨より出で來りしもの也。家庭教育を施こしがたき貧乏人の子のみが通ふべき所ろ也。然るに、富人の子が、車に乘せて玆に通はせ、家に立派の母ありて十分敎育し得べきをワザ〳〵他人の保姆にたのみ、而も一人づゝ附添を添ゆる丈けの餘裕あり乍ら尙ほ幼稚園に送るなどの愚もあり。

フレーベルは、母もし植物學を知らば天然の恩物澤山ならんと說きたり。恩物は、もと天然物、又はそこらあたりにあるものを活用して之に充つるを本旨とす。然るに、西洋の幼稚園にて、云々の恩物を用ゆるとなれば、直ちに其の通りに模造せんとし、斯あらでは効能なきが如しと思ふの不明もあり。甚しきは、インチ、フートなどの數目を其まゝ用ひて、日本の寸尺にすら直さゞるものあり。

日本の子は、幼稚の時より箸を持ち、指のサキ中々に銳敏なり。西洋人は迚も及ばぬほどに器用なるもの也。西洋人がナイフを以て鉛筆を削る體裁などを見るべし、眞とに不器用至極のもの也。日本人は、指頭の銳敏を以て萬國に秀づ。されば指頭を敎育する種類の西洋風の恩物などは尙更ら無用のものなるに、矢張りワザ〳〵之をも使用する也。

# 書架

○女四書

女四書とは、漢唐明代の聖后賢婦と呼ばれし人々の著せる婦女が修身齊家の規鑑なるを明の相晋升と云へる人が合集したるものなり。女誡、女論語、內訓、女孝經の四つなるが、本邦にても昔くより其和譯なるもの世に行はれしなり。然るに安藤一郎氏、其和譯數種を參考比較して、明治十四年に改正女四書と云ふを出版せしが、近頃ろ亦た第二版として世に出せり。其道教の則に至つては、古のを直ちに其まゝ今に執り行なふべきにあらずと雖ども、道の旨に至りては、古今に於て太差ある可らず。もしよく之を味はひて其深旨に參考せば、實地に益する所ろ亦た鮮からじ。

○三百諸侯（二卷）

武士の花の名殘り、德川譜代の旗下たる、殘花子は、麗潔典雅にして亦た花の如き筆一枝をふるひ、茲に月々「三百諸侯」一冊を世に出す。今ま、一二の兩卷を讀味するに、諸侯二十四家につきて、尤とも名ある人物を舉け、其一生の尤とも記臆すべき事實をあげ、一斑を以て全豹を推さしむ。たとへば枝端數輪の花を咲かせて天地の春を想はするものか。是れ大人封建の古しへを忍ぶのみか、兒童に古豪傑を語り聞かすの種として太はだ面白し。

○古今史譚（第五卷）

早くも第六卷となりぬ。珍らしき事實、周密なる穿鑿、卷を更ゆる每に新たなり。此の卷、小野和泉がいろはを妻に學ぶの一篇もあるなり。

○信仰之道

植村正久氏が福音道しるべと相對して、平易簡潔に宗教を談ずるの好小册子は、即はち此の松村介石氏が新著なるべし。人生より說き起して、安心立命、確信等に及ぼす。通じて、十二篇あり。

○銀婚式賀草

もし大典當日の珍らしき御儀式と人のにぎはひとの形を見んとせば、風俗畫報を見よ。万人の心にうつりし限りなき祝ひの思ひを見んとせば、博文館にて募集一卷したる此の大典の賀草をよむに若かじ。

○小說百家選

第三卷に至つて、三昧が指環、青軒が殺房あり。第四卷に至つては濱太郎氏の折矢柄あり。第五卷に至ては、柳浪が金烏帽子、小石が裸美人あり。英才が万代に遺すべき秀作を輯むるを、斯くして百種百家に達せんとのよし。

○四人の人

世の見る我あり、知己の見る我あり、已の見る我あり、神の見玉ふ我あり。此の四人の我につきて新鮮崇高の教を說く、ドラモンド氏が此の文の如きは、胸を刺し心を動かし、修德の立志を躍然として起たしむ。

○あさせの波第二編

吾社にて出版せしものなれば、自から評は下すと能はず。されど第一編を愛讀せられたる知己は、必らず之を顧りみ玉ふべしと信じて安し。



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 時事

○條約厲行に消極積極あり

條約厲行とは、明白の眞理なり、當然の正義なり。苟しくも約束して其如く實行せざるとを許さるべきや。責任を重んずるものは、皆當に條約厲行論者たるべき也。個人すでに然り、堂々たる國家にして、其公々たる條約を厲行せずして可ならんや。條約厲行論の起る、何の不思議かある。たゞ斯る明白正當の論議がわざ〳〵世に勃興せざる可らざるを奇しむ。更に之に疑問して之に反對するものなどのあるを尤とも奇なりとする耳。

左れど、今の條約厲行論は、兎角消極的に流るゝの弊あり。外面、强硬の如くなれど、實は一種の臆病心を含むやの嫌あり。外國と同交し、外國人を朋友と見るの度量膽識なくして、初めより喧嘩ごしに身構へして之に敵對せんとするが如し。もし市井の勇を以て勇なりとせば、之も亦た勇ならん。左れど大帝國は、かゝる小勇を誇るべきものにあらず。

愛國心は博愛より出でざる可らず。個人、利己なれば亡ぶ。國家も亦た唯利自國の僻見のみなりせば、必らずや亡ぶ。是れ天道なり。國家は、世界に屹立し、万國に對交し、天下に公益を供するの精神に充溢せざる可らず。此の愛國心は、即はち博愛の心なり。愛國心もし博愛心と調和せずんば、偏固狹小にして、遂に國を亡ぼすに至らん。

然るに、博愛と愛國心との矛盾するかを掛念するが如き小量を以て、條約厲行論を主張するときは、其弊や遂に攘夷鎖國に陷いらざる可らず。かゝる敵愾心を以てやうやく國勢を張らんとするは、邦家長久の毒なり。

左れば、條約厲行を主張するものは、其積極、消極の二方に着眼すべし。一歩も威權を損せず、一事も外國人の我儘を許さぬと共に、堂々として積極的の條約厲行を實施すべし。すべての條約第一條に云く、

以后……と日本帝國と誠實不朽の親睦を結び交親を旨とし交際の厚からんとを欲す云々

是れ万國結約の大本旨にあらずや。厲行論者たるもの、何ん

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぞ先づ其本を說かざる。第五議會の解散せられたる、第六議會の六派が熱執する、共に條約厲行を以て第一政議となす。固より可也。現內閣の柔軟退讓政畧に對しては、固より此の警詰わらざる可らず。左れど庶民は、極より極に行くもの也。先導者が民を導かんとするに當つては、末流遂に意外の濁を揚ぐることを慮ばからざる可らず。惜ひ哉、志士、積極的の方針に着眼すること薄し。

**○議會本來多望を囑すべきものに非ず**

帝國議會が年々歲々例によりて例の如くなるを奇しむことなかれ。奇しむは、尙ほ可なり、之が爲めに落心失望することなかれ。物事の初めは、大率ね皆な斯の如きものぞ。今の議會は、立憲政の小學校なり、議員は尋常四年生なり。騷がしからんは當然ならずや。又た、議會に對して失望するは、之に餘り多くの望みを懸けたるが故なり。政事は人事の一つにして社會に澤なる大事業の十分の一のみ。價値ある、効力ある、名譽ある、眞面目の仕事他に多くあり。惟ふに、今の議會の爲すことなきを觀ては、人才たるもの續々他の事業に轉じ、所々の方面齊しく名士を得、從來荒れ果てたる未開の事業、之より大ひに開拓せらるべし。之れ、帝國議會が目に立つほどの實功を奏せざる所以の結果にして、眞とに邦家の幸はひなりと云ふべし。社會に大法あり。人事は妙に配劑して、活機面白く運轉するもの也。

**○鐵道の大打破軍**

本年の議會は、大多の鐵道布設案を可決確定したり。今後十二三年の內には、日本國中、手掌の線の如く、草の葉の糸の如く、蜘蛛が編む巢の如く、東々西々南々北々、山又山、川又川、野又野、原又原、町と云ふ町、村と云ふ村、何處にも鐵道の係らざる所ろなく、鐵道に近からざる所なきことゝなるべし。人煙は兎に角、滊車の煙は、何所よりも立ちのぼり、天に雷鳴なき土地ありとも何如なる山奧にも車響のとゞろきはあるべし。斯の如くなれば、各地の豪傑、唯我獨尊と思へるうちに領地の藩屛破れ、金穴、堅固安心と思へるうちに財產頓に價を減じ、大勢氣運、知らぬ間に眠れる間に忽變激遷すべし。更に痛ましきは、習俗、氣風、道德などの變遷是也。



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

黒船が西洋より持來したる唯物的の大變動は、之より滊車の白煙が内地の町々村々に向つて激に移入せんとする所也。一地方の風儀に掛念する田舍先生、一家身代に責任ある主婦令夫人、田地をもてる地主、株に賴む商人、お山の大將己一人と意張り玉ふ方々、流の河童此方のみと免許せらるゝ豪傑などは、先づ今日より警戒して大ひに準備する所なかる可らず。

○實業敎育の補助

政府より議會に提出したる實業敎育費國庫補助法案は、衆議院を通過したり。恐らく貴族院をも通過すらん。通過后確定せば、本年九月一日より此法令實施せられ、國庫は每年金十五万圓を支出して之に充つべし。扨て、何如なる學校に此の補助を與ふべきやの認定權は一に文部大臣の胸中にあつて存す。此故に、此權もし誤用せられて、補助の給與万々一に不當不公なりとせば、健全なる擬立學校の發達は反つて妨害せらるべし。斯の如くなれば、國庫の補助は反つて國家の妨害となり、敎育の發達むしろ中止せんとす。左れば、たとひ法案は可決せられたりとも、實行の手腕を見ざれば、未だ直ちに贊美するとあたはず。

# 交詢

○養蠶科普通敎授の問　　信州　一養蠶士

偖て、小子事昨今感慨に堪へざる一事有之候故一寸御伺ひ申上候小子近隣の青年兩三名先頃花嫁を娶り候其青年は皆禁酒會員にして日夜小生の處に出入致し居り其妻及父母も等しく屢々來り候、故を以て小生は初めて嫁姑間及花聟、花嫁間の實況を詳細視察する事を得候而して實に悲む可きの實況を見出し候。尤も斯る事は貴下の万々御承知の事と奉存候得共、一言すれば嫁は夫の妻として來りしにあらず父母の下女として來りし者の如く夫も亦渠を遇する下女に異らず、花嫁は一つの權利も與へられずして一家の壓力は悉く渠一身に集る、昔者壓制の君王は民を苦めし事甚だしき雖遠き都にありての干渉故に尙忍ぶ事を得可かりしも日夜間斷なく相對するの壓制者程困り入る者はなかる可し。然かも其君主は帝王の如く一人に非ずして通例三人時としては七八名に及ぶ事あり。此の苦界を十數年經ぎ行けば花の如く美に、鳩の如く溫和なる天女に比す可き花嫁も終に惡鬼の如き老婆と化し去るなり。之れ等の壓力に堪へ兼ねて小生が西隣の花嫁は數日前家出せんとせしを姑の爲に認められ、嗚呼血の淚は流され候、我等も貰ひ泣き致し候。人の敵は其の家の者なる可しと、主の御敎へ玉ひし事初めて思ひ當り申し候。主に就ける乙女等が他に嫁ぎて幾多の迫害に遇ひ終に其信仰を捨る者多きの理を了解致し候。何れの土地に行くとも同じ人の住む家には同じ壓制の行はるゝ事と被存候。我日本に離婚の數の多き世界に比類なきは斯る家族的壓制其が源因を爲す者多しと存候。然れば我々は大に奮發して新紀元を開く事に盡力せざる可からざるの責任ある者と信じ候。近頃多くの學者諸士は盛に勞力問題等を論究し政府も亦同問題の調査に着手せられしと承ながら、更に重要なる社會問題を遺失せしこそ憾みなれ。

西洋　人民權利の伸長――婦人權利の伸長――勞力問題（貧民權利の伸長）

日本　人民權利の伸長――――――勞力問題

西洋にては婦人の地位尊まりて後初めて現今の勞力貧民問題に及びし者なるに、我日本にては未だ婦人を奴隷の地位より援ふ事を爲さずして直ちに勞力問題に及ぶ、淺薄にも西洋の外面を眞似る者と云はざる可からず。よし眞似に非ずとするも同情より起りしに非んば、佐久間某の同盟罷工論と等しく、富者資本主の爲に計る利己主義たるを免れずと存候。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

然れば今日我日本に於ける最大問題は責任內閣にも非ず自主的外交にもあらず、實に婦人權利の問題なりと存じ候。此の問題の解釋せられざる限り教育、貧民勞力、の諸問題共に解くを得可からず彼の對等條約の如きも等しく得るを難しと爲すなり。基督教の傳道の如きも此の家族的壓制を打破するに非んば進歩遲々たるを免れずと存じ候。我親友の一人も日本今日の教の敵は決して無神論に非ずして却て祖先教にありと叫び申候。

偖て此の大問題に向て斧を加へんには如何なる方法を採る可きか、之れ御伺ひ申度件に御坐候。子婦別居の如きは最良法なれ共在來の習慣と現在の資產の程度にては極めて六ヶ敷事と被存候。蓄妾妓廢止の如きも、腐れたる人物の心腸を新にする程の勢力は無之可くと存じ候。然れば根本たる志想の改革を爲すより他なかる可しと存じ候。然るに今日の教育界は、依然婦人を輕蔑致し居り、小學校に迄其形跡のあるあれば、之れを改革する事亦至難の事と云はざる可からず。如何なる進路が最も良好なる、幸ひに御示教奉願候。小生一つの愚案あり、試みに一寸申上ん。養蠶業は、現在の日本に於ける經濟上米作に次で最大の事業に御坐候而して尚益々進歩せんとす。然るに婦人の爲に悲む可き一現象は、從來養蠶業は專ら婦人の權內にありしに、漸く盛大に趣くに從ひ、男子之れに代らんとするの勢有之事に御坐候。各地の養蠶傳習所の如き、多くは女子の入學を禁ずあるを以て、新養蠶地は全く男子の專有に歸せんとするの有樣なり。

往古より盛大なりし信州及奥州の如きは、婦人尚ほ養蠶界の實權を握れ共、漸く其の位置を男子に讓らんとするの傾きあり。蓋し養蠶の理精細に趣くに從ひ保守的文盲の婦人には力堪ゑざるによるならん。左れば余は思ふ、各地の高等女學校に於て、養蠶の理を充分に教授し家に歸りし後多數の男女を用ひて此の業を營む程の力量を養はしめ、養蠶を以て唯婦人の內職に留めず、一家經濟の根本と爲し其の總理の任夫人自ら當るに於ては、其の位置は自から高まらんと。此の頃花嫁の涙を見てより、種々考へ候故敢て御示教を仰ぎて斯くは認め候早々。

〇答

女學校に於て裁縫科と相ならべ養蠶法一と通りを教授して家政學の中に入るゝは至極適當と考へられ候。但し之を精細に教へ尚且つ實地に試みしむるなどは、撰科として有志のものにのみ許すと爲さんと教育學上に必要ならん。但し地方の女學校に於ては、女生たるもの少し宛にても自個の寄宿室內にて自から飼蠶することを樂しみとするようにいたしたきもの也。又、女權の伸びざるに至つては、慨思同想の情切なるを申す迄もなし、之を伸すに百方あり、各所より併らび進まざる可らざるとに候へども、女子に財產あらしめ、又生產力を持たしむるなどは、直接に有効なる一方に候。之が爲めに養蠶の業に着目するは至當の見識と存ぜられ贊同の念近來彌よ强し。

# 雜録

## 接吻のはじめ

閨女譯

米國費府發刊の"Ladies Home Journal"(貴女家庭雜誌)の特別記者レーメァンなる人東洋古代の筆の跡に幾多の星霜を費して遂に接吻の何處にて如何なる時創められしやを知りしとて昨年夏の頃かの雜誌に掲げられぬ凡て人生に關りて善きもの麗しきものゝ多は希臘より始まりしがこの接吻禮亦かの國の賜物なること明になりぬ接吻とは人皆いへどその如何にして創りしやを知る人稀なれば今こゝにわが拙き筆の端にかけていまだ知ざる人に告ぐるになん樂器の調の如き優麗なる希臘の文躰を寫し得ぬ事は讀む人恕せかし

ケスセチスはボァテヤと呼れたる希臘國一地方の牧童なりき後年壯大の都となり幾多の珍事その內外にて行はれソフォクルスの悲劇演本により遙かに追想せしむる名高き齊武の小

き村に父と共に住み居たり靜かに羊を牧ひつ暮居けるが年月に淀みなく今は早や丈高く姿美しき青年とは成りぬ然るに如何しけん家族の生活物懶しとて小き包を背に負ひ牧者の杖を手に取りて飄然北に向て立ち去りけゝが幾日の旅を經て希臘の北部セサレーの地に着ぬ此處にてドライアデスとて羊數多く持る人に雇はれたれば日毎に群を導きてペレオンの山腹に至り笛を弄しつ羊を飼ひ遙に日陽を寫すユージアンの海面を眺めて嬉しみぬ嗚呼此のユーヂアンなり昔し嬰兒ボルシュアスの漂されしは又此のユーヂアンなり其の激浪の橋なす艦を破りしとてゾルキセスに鞭たれしは偖てドライアデスに娘ありユーレベヤとて花顔柳姿の聞え高く心ばえ優しきに剩さへ當時世に知られし婦女の嗜みは漏さず修めて巧なりき。

ユーレベヤはいつしかクスセチスを思ふの心壯んなるにクスセチスも亦深く彼の女を慕ひければ後には己も牧場の主となり小やかなる草舍にても己のものを打ち建てゝ愛しき人と暮し度などの望を懐きぬ。

ユーレベヤは山を漫歩する時思はずクスセチスに逢ふ事あれば共に草の蓐に息ひつゝ睦言語り合ふに嬉しさ盡きずやがて羊を集る時ぞと心付く頃は夕日靜かに西に隱れてペレオンの山影うすくユージアンの海面を掠むる頃なりき又折には乙女子心の恥しさに態とクスセチスの所を避けて程近き岩間隱れに佇みて戀人の優しき笛の音に聞き取らるゝとも多かりき然すれば如何なる故か彼も亦彼の女の近きに居るを知り萬斛の思を込めて吹きすさむものから絶んとして絶えず高くして低き滴る計りなる妙音は誠に群の羊も自づと頭擡げて聞く樣なりき。

クスセチスはユーレベヤに勸めて餘り羞らはで日毎に山に來るやうにと云ひける程に漸く馴れ親みて今は互に呼びかわす事も多くなりければ長き名を呼ぶは五月蠅しとてユーレベヤはクスセチスを單にクスと呼びクスセチスはユーレベヤをレブ(肋骨)と呼ぬ偖てユーレベヤとクスセチス固より偶像敎徒の事なれば始めの女が人祖アダムの肋骨より造られし事など知らざりしが今や思はずも己が戀人にこの不思議の名を附しぬ。

或る日春の景色の殊に長閑けきにユーレベヤはペレオンに登り戀人の笛の音聞ゆる邊り徨ひけるに小流の岸にて不圖美し

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

き小石一つ拾ひ上げぬ岩に腰うち掛けて能く〳〵見れば大さ豌豆程もなく角立ちたる石なれど日光に透し見るに見聞きせし凡ての色を寫し出しぬ餘りの面白さに「虹！虹！」と叫びつ急ぎクスセチスに持ち行かんとせしに忽ち高き蹄の音背後に響きぬ驚きて振り返ればあなや彼の女が兼て神々にも祈りて一生逢はぬやうにと願ひたりし恐ろしき森の神ペヤンの其の毛深き顔に角を生やし山羊の如き脚にて立ち居るを見ぬ。

ユーレペヤは兼て森の中にて吹きならすペヤンの笛の音を遠くより聞き己が戀人の吹管に引きくらべて不調子の音よなどと許し居りしが今目のあたりその恐ろしき姿を見ては誠に身の毛逆立ちて慄きぬ。

「其の石呉れろ」と雷の如き聲にて云はれしに「私が……私が……クス、……クスセチスに遣りたいから」と幽に漏しぬ

「何？、クスセチス？、誰だそれや？、乃公は乃公の森の女神に遣りたいんだ」と大地もゆるぐ斗りの足音もて進みけるがユーレペヤに觸るゝ前彼の女は已に走りて山を登りかゝりぬ。

クスセチス我を扶けん」との思にて漸く仆るゝを免れ數分立



たざるに早やくも戀人の腕にかこまれぬ恐しき神に追はれて俄に來りしものから羊は皆驚きて飛び上り四方に散りぬ流石に勇しきクスセチスすら若き牝羊の如くに戰きぬされどクスセチスは優しき言葉もて神に會釋し次の祭日には二倍の獻物を奉るべければ今日は恕して立ち退き給へと願ひしに兼て正直なる牧者の祈は何時も聞き受くるペヤンなれば澁々ながらも立ち去りたり。

「一躰まあ、どうなすつたの、よツくおきかせ」と召はれてユーレペヤはそのペヤンと逢ひし物語りを短く話しぬ語り終へしとき「だが、その私に持つて來ようとなすつた石は何處にあるのです、きつと逃げた時路に落して來れたな」と云ひしがクスセチスはあやまれりそはその寶石をユーレペヤの口に啣まれて今その紅き唇より樣々の色を輝かせばなり「お取りなすつて」と彼の女は囁きぬ然れどもクスセチスはユーレペヤを固く抱きしめユーレペヤも亦固くクスの腕に取り付き居たれば何れの手か能くその乙女子の口よりその石を取り得べき。

クスセチスは凡の智識を呼び起せり此の石を取る妙案ぞやと



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

考えしが此の瞬時彼が心に浮し唯一の智慧は只だ彼の唇にてユーレベヤの口より取る事にてありき屈折して彼の顔は愈々彼の女に近けり近き近きて相互の口唇接するや見よケスセテスの心中早や石なく山なく吹管なく羊なし只だ云ふべからざるの情緒心意を妄すのみ而してユーレベヤ亦羊も忘れ山も忘れ海も忘れ川も忘れ彼の恐ろしかりしペヤンすら此の一瞬の優情に恐れ果てぬ。

ケスセテスの止めがたき願ユーレベヤの眼にあらわす和しき答の果されん爲め幾度も彼等の唇は相觸れぬ偖て此は物新らしき事なり未だかゝる事の人生に知られし事のあらねばケスセテスとユーレベヤは己れ等の好き發明者なるを喜びて此の秘密は他に漏らすまじと誓ひたり。

然れども秘密は婦女に語れば破るゝと古の諺の如く悲しくも此の秘密も亦遂に發かれぬ誓ひし事を打ち忘れてユーレベヤは海邊に住みし若き友レダ孃に物語りぬ偖てレダは浮きたる性にてメッガソとテセデスの二人の戀人を持ち居りしがユーレベヤがその戀人の名を付てケスと呼びし此の新らしき秘密を告げぬ然るにメッガソにはエペレスに住む他の愛しき人ありければ行きて告げテセデスはペレオソの西なる二人の親しき乙女に聞かせ其より又移り移りて今は只だエペレス、セサレーのみならでケスセテスが幼時を送りし齊武より凡の希臘凡ての世界に知られ渡りぬ。

昔語りに傳へらくアゼンの或る政治家曾て市場にて此の接吻の事を聞き不思儀に思ひ家に歸りて妻に施さん爲め道々出會し十四人の乙女に試みしを誠に接吻は地より天にと傳はりぬ見ずや日陽の山に波に塔に屋根に又は小女の美しき髮にさへ接吻すと詩人の謌くを。

ケスセテスは遂にユーレベヤと契りを結びぬ相生の松の緑りは常はに變りなくケスは身を終ふる迄レブを思ひ一度も他し婦に接吻せざりき。

彼等の肉は幾千年ペレオソの山の麓に休らひて其の名は僅か小數の人にのみ知らるれど彼等の發明は地の限り男女のある所に行き渡り喜を増し悲を減じ愛を加へ憎を削る仲保者とは成りぬ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 片々

## ○學齡兒、修學不修學の男女比較

統計學雜誌中岩井德次郎氏が本邦初等教育の狀況と題する有益なる論文の中に云く、

明治五年學制の頒布ありて以來二十有餘年の間には西南の役あり、數度の猛烈なる流行病あり、民力の困弊あり、或る地方に於ては水災、震災等ありしにも拘らず初等教育は普及の勢ありて敢て退縮の蹟ありしを覩ず竊ふに明治六年に於ける學齡男百中修學は三十九人九分女は十五人一分四厘平均二十八人一分三厘なりしが十五年には男六十四人六分五厘女三十八人九分七厘平均五十八人七分二厘となり進んで二十五年には男七十一人六分六厘女三十六人四分六厘平均五十五人一分四厘の巨數に達せり左に二十一年以降五ヶ年の實數及其比例を示す。

| 年次 | | 學齡兒童全數 | 學齡修學 | 學齡不修學 | 學齡百中修學 | 學齡百中不修學 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 二十五年 | 男 | 三九〇、三六五九 | 二七九、七二五六 | 一一〇、六四〇三 | 七一・六六 | 二八・三四 |
| | 女 | 三四五、三〇六五 | 一二五、九〇〇六 | 二一九、四〇五九 | 三六・四六 | 六三・五四 |
| | 計 | 七三五、六七二四 | 四〇五、六二六二 | 三三〇、〇四六二 | 五五・一四 | 四四・八六 |
| 二十四年 | 同 | 三七八、三四三五 | 二五二、四四九三 | 一二五、八九四二 | 六六・七二 | 三三・二八 |
| | 同 | 三四三、七〇一五 | 一一〇、七七五九 | 二三二、九二五六 | 三二・二三 | 六七・七七 |
| | 同 | 七二二、〇四五〇 | 三六三、二二五二 | 三五八、八一九八 | 五〇・三一 | 四九・六九 |
| 二十三年 | 同 | 三七六、五九八四 | 二四五、三〇一九 | 一三一、二九六五 | 六五・一四 | 三四・八六 |
| | 同 | 三四二、九四二八 | 一〇六、七六九九 | 二三六、一七二九 | 三一・一三 | 六八・八七 |
| | 同 | 七一九、五四一二 | 三五二、〇七一八 | 三六七、四六九四 | 四八・九三 | 五一・〇七 |
| 二十二年 | 同 | 三七〇、九一六四 | 二三八、四三六九 | 一三二、四七九五 | 六四・二八 | 三五・七二 |
| | 同 | 三三六、九四〇〇 | 一〇二、六〇五三 | 二三四、三三四七 | 三〇・四五 | 六九・五五 |
| | 同 | 七〇七、八五六四 | 三四一、〇四二二 | 三六六、八一四二 | 四八・一八 | 五一・八二 |
| 二十一年 | 同 | 三六一、八七二六 | 二二七、九九七二 | 一三三、八七五四 | 六三・〇〇 | 三七・〇〇 |
| | 同 | 三三〇、一六一九 | 九九、七五一七 | 二三〇、四一〇二 | 三〇・二一 | 六九・七九 |
| | 同 | 六九二、〇三四五 | 三二七、七四八九 | 三六四、二八五六 | 四七・三六 | 五二・六四 |

本表の如く學齡兒童修學の比例は逐年上進し就中二十五年は前年に比して增加せしこと從前未だ嘗て有らさる所なり然れども女子修學の有樣は未だ男子に及ばさること遠し即ち男子は修學七に對する三の不修學なれども女子は之と反對にして修學三に對する七の不修學となる之を約言すれば女子三人の中には一人の修學にして二人は不修學の比例(結婚數の離婚數に對する比例の二倍)となるべし今本表二十五年の不學修中に就き就學猶豫又は免除を受けたるもの丶事故如何を調査せしに左の如し。

| | 男 | 女 | 計 | 同上百分比例 男 | 同上百分比例 女 |
|---|---|---|---|---|---|
| 貧窮 | 四九、七一〇六 | 一〇八、六九七三 | 一五八、四〇七九 | 三一 | 六九 |
| 疾病 | 九、一九五一 | 一六、〇八九三 | 二五、二八四四 | 三四 | 六六 |
| 其他 | 二七、四五九三 | 六六、八八七七 | 九四、三五七〇 | 二九 | 七一 |
| 合計 | 八六、三六五〇 | 一九一、六八四三 | 二七八、〇四九三 | 三一 | 六九 |

此掲數に據れば全國學齡兒童の中貧窮に由りて修學爲し能はざるもの丶數は實に百五十八萬餘疾病に由るもの二十五萬餘其他の事故に由るもの九十四萬餘合計二百七十八萬餘人なり此巨數の大部は女子にして男子は其中にすぎず之に由て觀れば本邦女子は男子より多く貧家に生れ疾病も亦男子より多きもの丶如し然れども豈然らざるべし是れ一般人の識る所の如く本邦は古來より女子教育に留意せざる習慣の一大原因ありて下等の生活者に在つては女子には嬰兒の提抱或は薪水の幇助をなさしめ目前の利便のため修學爲さしめざるもの多くあるに因るなるべし學齡兒童修學不修學の状況は概ね斯の如し就中學齡男修學の有樣は歐洲文明國の學齡兒童修學(千八百九十年英吉利に於ける學齡百中修學兒童は七十九人六分七厘佛蘭西は九十八人四厘千八百八十六年普魯士は九十三人一分二厘何れも男女殆んど均一なり)と稍や近似の状況ありと雖ども學齡女子修學に至りては前掲の如く最も劣等に在り然るに女子は後來人の母となりて其兒童の家庭教育に大なる關係を有するものなり而して家庭教育の如何は國家開明の上に影響を有するものなるが故に將來の家庭教育者たる即ち現今の學齡女子の教育を完全ならしむる策を講究する事は急務中の最も急務なるべし。

## ○女子師範學校は大嫌ひ也

長三洲、千葉縣教育雜誌記者に談じて、人の容貌言語は徳育に大關係あることを說き聞かせ、終に曰く、

師範學校が拵へた以上は、師範學校に這入る人は吟味して入れればならぬ一見慕るべき敬すべき所があり、言語が宜い人でなければ學問が出來るばかりではいかぬ氣味があるから、又女子師範學校などは大嫌ひで論じた事もある、女子の身分は妙な者で、如何ほど學問が出來ても人から畏敬せらるゝと云ふ例はない、先生なれば畏敬せらるゝところが無くてはならぬ其畏敬せらるゝ側は天性女子は有つて居らぬものであるから學問が出來ても女子の師範になるは當り前であるが、矢張り女子男子の立派な人を見る樣な譯にいかぬ、女子師範學校の生徒は出來上つても師範になり兼ぬるものであらふと思ふ、

之を方今名家と稱せられたる人士の議論とす。

## ○貧民の統計

經濟雜誌は、第七百二十六號に於て、貧民の統計を製し、國税滯納處分にあひしもの、盜を爲すもの、官金の救濟を受るもの、棄兒、養育院に入るもの、育兒院に入るもの、感化院に入るものなどの增加を示して、遂に曰く貧民に關する統計は許多あるべしと雖ども、大勢既に明かなるを以て擱筆す。而して、國税滯納處分にあひしもの丈けに付きて、二十四五年の兩年度に於て調査するに、貧民は毎年二十一万七千餘人ほど宛增加すと概算せり。





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# 時報

## ◎學校、教育

●女教員の增減　熊本市に於ける女教員の增減に就て九州日々新聞傳へていはく小學教育を盛大ならしめんとせば先づ第一着に就學齡の童男童女を督促して學ばざるの兒女なからしむるに在り今日就學の現狀を見るに兒童は百中七八十迄は就學すれども女兒に至りては唯だ百中の二三十に過ぎず故に向後は兒童を督促すると共に尤も女兒を督促するの必要あり而して女兒の就學を欲せば女子必要の學課を授けざるべからず今ま熊本にて既往十年間に於ける女教員の增減を見るに左表の如し

| | | | |
|---|---|---|---|
| 十七年末 | 雇 十八 | 十八年末 | 雇 十五 |
| 十九年末 | 雇 十六 | 二十年末 | 准 五　雇 十四 |
| 廿一年末 | 准 二　雇 十六 | 廿二年末 | 准 二　雇 十八 |
| 廿三年末 | 准 五　雇 二十 | 廿四年末 | 准 六　雇 十九 |
| 廿五年末 | 正 一　准 八　雇 十一 | 廿六年末 | 正 一　准 五　雇 十七 |

從來各小學校にては女兒の爲めに必要の學課を教授せんとて正科の外に裁縫科を設置し之が教師として裁縫專科の老婦人を雇入れしが正科の女教師は割合に多からずして前小學校令の施行以後も多少其等の人ありしが新小學校令實施以後も總て雇を除き正科の教師は自己の修業及び講習會の修業によりて檢定試驗を受けしもの月々增加し今日に至りては正教員二名、准教員十六名、雇三名、外に高等小學校に於ける裁縫專科の雇四名、合計廿五名に及べり即ち就學女兒の部に見るも漸次其數を增加するを見るに至れりと

●工女卒業　福岡市筑陽社に於ては去る十四日午後一時より同市東公園昔松館に於て工女卒業證書授與式を擧行せり當日筑陽社の役員及び常置委員は固より製糸工女は總べて臨席し先づ社長野村祐雄氏卒業工女に一々證書を授與し終つて宴會を開きしが來賓も少なからず盛會にて午後六時に至りて散會したりと

●高木女子職業學校　金澤市西四十物町に創設したる私立高木女子職業學校主は高木篠氏とて從來尋常師範學校女子部の助教諭を勤め居たりし人なるが同校を辭し現今標題の如き私立學校を設け專ら女子教育に孜々たるが爾來生徒日に增加し目下百名もある由なり全校は本科（三年）補修科（一年）の二科に分ち課程は衣類裁縫に關する一般の方法及び家政談等なりと云ふ

●裁ち縫ひ唱歌　長野縣上田子守教育所にては教員山田年氏に左の如き唱歌を編せしめ之を授けて日々唱えしめ居るといふ

女子の手業とはなれど　都もひなもおしなべて
たかき賤きへだてなく　裁ち縫業を知り得べし
これのまなびの第一を　一つ身たちと云ぞかし
身丈けは二尺そでは尺　袖よりとるは襟おくひ
これを合せて惣たけは　八尺をもてさだめとす
其第二には三つみだち　このそうだけは竪丈と
三尺五寸をまづそでに　六尺をとりて其うちで
襟を割りだし殘りたる　七尺五寸を三ッにおり
その折目をば右よりも　また左よりなかばまで
たち込縫りかれの手に　其まんなかをたち合せ
ひろき方にて衽となる　此裁ち方はいとかたし
兩面ものにあらざれど　裁をならひと覺ゆべし
その第三は四ッみだち　まへ身そら縫衽となし
後身よりはえりをとり　そう丈け竪丈八尺と
心のうちにしるすへし　その第四には本だちよ
このそうだけは一反と　定めておれど人〳〵の
身の長短と仕たてには　男をみなのわかちあり
およそ男はまへ身をば　先づ七寸にうしろ身は
まづ八寸にみごろをば　三尺あまり七八寸
そでを一尺四五寸に　かた行き一尺七寸五分
をんなの身幅は男より　後もまへも五分つめて
三尺あまり六寸に　みごろのたけは四尺强
そでたけ一尺五六寸　いたゆき一尺六寸五分
襟とおくひは中はばよ　されどおくひに相違の
二幅あるのは外ならず　丈あるものは倍にたち
丈ときものは建にたつ　これ裁方のあらましぞ
これを辨へ得しらずは　不自由至極のみならず
女子の道に欠けぬべし　思ひ務めよをとめたち
學び勵めよをとめたち

●婦人養成會　愛媛縣南宇和郡東外海村字深浦の有志者は過日標題の如き會を設立し專ら女德を涵養するを目的とし兼て裁縫及び家政上の事を教授する事としたるに目下入會者四十三名あり深浦尋常小學校訓導高木孫四郎氏之れが監督の任にあたり時々出席して道德上の談話をなし漸次隆盛に赴くの模樣ありと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## ◎美談

●奇特な婦人　播州赤穗の舊藩士に福非惣六と稱へる人あり此の惣六の娘おちく(四十六)と稱ふは幼少の頃より能く兩親に事へ孝行ものよさの評判ありしが九歲の時フト母親は病痾に罹り次第〳〵に重り行くよりおちくの心痛一方ならず醫師よ藥と夜の目も合さず看病するを時の藩主も聞きたまひて少女には珍らしき孝行ものよと若干の金を褒美に下されしよりおちくも難有き事に思ひいよいよ看病に怠りなかりしゆゑ差もに重き母の病氣も日ならず全快したるが其後おちくは大阪へ登り北區富島二丁目の炭屋治郎兵衛方へ下女奉公に住込み廿九歲の年まで都合十六年の間一日の如くまめまめしく立働き用事のなき折には鼻緒を造りたり主人の肩腰を揉さすり爲たり爲る事の市廳に聞えて明治四年の十一月大阪府より金千疋を褒美として貰ひしほどゆゑ主人も好いものを置きたりと喜びながらおちくが廿九歲のとき世話して山本美之八といふ家へ嫁入せたるに夫の美之八は間もなく中風症に罹り商法をなす事の難きより自分が代りて商法の事から家事向を引受け苦勞に苦勞を重ねし甲斐あつて數十年の間に七百圓の金を貯へるに至りしより昨年の一月は亡主炭屋治郎兵衛の十七回忌に當るを幸ひ半額丈無き物とし夫美之八の名義にて市內の貧民七百人へ白米を一戶五升づゝ施與したる際にて山田府知事より木盃一組を賞與せられしが其後八月に至り夫は六十四歲を一期とし歸らぬ旅へ赴きしより悲歎の中にも立派な葬式を營みしさへ感心なるに本月は亡夫の一週忌と實父の三十三回忌に相當するより猶ほ殘金を振きさらへ市內の貧民一千人へ白米三升づゝ施與したき旨南北西の三區役所へ屆け出しとは實に孝貞全き婦人にこそ因に記す同人は當時北區富島町二丁目五百二番屋敷に麴を商ひゐるよし(大坂每日新聞による)

●婦女の鑑　秋田縣に於ては此程左の如く賞金を下賜さる

秋田縣羽後國山本郡淺內村大塚五郎妻　大塚　いし

性從順姑及夫に事ふるの道を盡し明治十七年中姑の不隨病に罹るや起臥飮食沐浴等其意を迎へて歡待し看護苟も怠らず傍ら夫を助けて業務を勵み能く家計を處理し累年貞操の行洵に奇特とす仍て其賞として金三圓五十錢下賜す

●又高知縣に於て左の如く賞せらる

高知縣土佐郡宇治村　池澤銀次妻　池澤桑

資性溫柔平生克く舅に事へ其久しく病に臥するや夫を扶けて日夜定省怠らず飮食必ず其嗜好を撰び看護能く其意に從ひ只管病苦を慰藉することを勉め二十餘年の久しき終始渝らざる段恟に奇特とす依て爲賞金壹圓下賜す

高知縣知事從三位勳三等　石田　英吉

高知縣吾川郡北川村　岡林馬次母　筒井久万

資性溫順平柔貞節を守り夫久しく病に臥し姑亦老衰家政漸く窮困を告ぐるも能く子女の稼業を勵み自ら家事を宰し日夜看護奉養を怠らざる段恟に奇特とす依て爰に褒詞す

高知縣知事從三位勳三等　石田　英吉

## ◎風紀

●廢娼請願書の提出　群馬縣上毛青年會の總代石島良三郎住谷彌作の兩氏は同縣民千餘人の署名ある廢娼請願書を木暮武太夫氏の紹介を以て去る頃衆議院に提出したりと云ふ

●荷物にはあらで婦人なり　去る十九日午後五時橫濱出帆の英郵船タコマ號に船問屋津久井より積込みたる荷物中に怪しき人聲せしを聞付け臨監の稅關官吏は直ちに之を開かしめしに意外にも襯衣一枚を纏ふたる婦人が其取扱ひの手荒きと空氣の流通あしき爲め殆ど絕息し居たりしに付介抱の上水上警察署に送りしかば警吏出張して怪しき荷物は盡く解き開きしに他に尙ほ三名の婦人何れも窒息して言語さへ通ぜざるものありしを發見したり即ち密航の賣淫婦なりしと云ふ

## ◎片々

●岩本善治氏　本紙前號に揭載したるが如く、明治女學校長にして女學雜誌記者なる岩本善治氏は再昨日の第二列車にて來盛したれば數十名の有志者相會して同日同氏を內丸秀淸閣に招待したり同氏は席上に於て教育と道德とに付き一塲の演說を試み頗る盛況にてありたりしとぞ因に記す同氏は急に上京せざるべからざるの事情ありて巖手女學校を一覽したるのみにて一昨日の第二列車にて歸京の途に就きたるが爲め三田村木氏等が計畫の教育演說會は遂に實行するに至らざりしとぞ(岩手公報五月十七日)

## ◎仙臺の演說　(福音新報五月十五日)

去る十二日午後二時より、五城館にて巖本善治、戶川安宅兩氏の女學演說ありたり、當日は市長遠藤庸治氏の名を以て、貴夫人及び女學生に招待狀を發せられたり、是日會する者二百名

午後七時より松島座にて演說會を開く、少しく否々の聲あり、司會者は齋藤壬生雄氏にして、辨士は戶川、巖本兩氏なりき、聽衆凡そ五百名、

日曜日の朝東四番町會堂にて說教會を開く、司會者は橋本經光氏にて、辨士は同じく前二氏なり、會衆四百名、頗る好況なり、

午後二時より五城館にて中學生徒のため演說會ありしが、辨士は又同じ二氏なり、聽衆凡そ四百餘名、

午後七時より美以會堂にて演說會あり、司會者は田中於菟氏にて、滿堂立錐の餘地なし、辨士は同前二氏月曜日には諸氏松島に行かれたり、

# 通　信

## 第二回女子夏期學校準備の報告

**第一集會**　（明治廿七年四月廿日　女子學院內に催す）
此集會は前期繼續委員の集會なり

**決議**　（一）　第二回夏期學校は本年八月廿一日より九月八日迄を以て靑山英和女學校內に開く事

（二）　京濱所在の各基督教主義女學校より一名以上の代員を招集し五月十九日午後二時を期し靑山英和女學校內に會合し開設に關する準備會を催す事

（三）　外國女教師中より外國人委員を選定せしめ準備委員に加ふること

（四）　右三項の請求、誘勸、及周旋の勞を矢島かぢ（東京方面）稻垣すえ（橫濱方面）二氏に依囑す

（五）　五月十九日に開かるべき集會に於て前期の事務を新委員に引渡す事

**右議定の上散會**

**第二集會**　（五月十九日東京英和女學校に催す）
此集會は前會の議決に基ける第二回夏期學校開設に關る準備委員の會合なり

**出席者**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 共立女學校 | 片桐　ヤソ | 東京英和女學校 | 山岡　キヨウ |
| 英和女學校 | 石井　チカ | 同 | 雉賀　アサ |
| 聖經女學校 | 深澤　フサ | 東洋英和女學校 | 吉田　イウ |
| フェリス女學校 | 平野　ハマ | 築地海岸女學校 | 星野　クチ |
| 捜眞女學校 | 欠 | 彰榮女學校 | 海老原辰識代 |
| 繼續委員 | 稻垣　スヘ | 女子學院 | 矢島　カヂ |
| 外國教師委員 | ラウレンス女史 | 明治女學校 | 小此木忠七郎 |
| | グリフイッツ女史 | 女子獨立學校 | 欠 |
| | ガンドレイ女史 | 駿臺女學校 | 欠 |
| | ペンダー女史 | | |

**報告**

（一）　周旋委員矢島氏　東京英和女學校より本期校舍たるの承諾を得たる事、上記十四校滿足の贊同を與へられ本日乃ち內外の教師委員として出席せられたること。

（二）　繼續委員稻垣氏　前期の事務を引渡さる

**決議**

（一）　同盟各女學校委員は盡く今回準備の責任を負ふこと

（二）　委員分擔　（五局廿三名）

第一、會計　平野ハマ、片桐ヤソ、吉田イフ、（主任）田村武治
第二、學事　海老原辰識、早乙女キサ、星野クチ、星野光多
第三、寄宿　山岡キヨウ、雉賀アサ、稻垣スヘ、未定二名、
第四、書記　石井チカ、深澤フサ、笠井シツ、（主任）小此木忠七郎
第五、庶務　ミス、ラウ。ミスグリフイッツ。ミスガンドレイ。ミスペンダー。（主任）矢島カヂ、（主任）岩本善治

（三）　課目編制、講師請聘其他一般の施設準備並に開期中の管理は庶務之を主任し諸他の掛員は其局務を分擔處理す

（四）　經費は前回の殘金二十圓を基本とし新に六十圓を募增し更に預備費二十圓を外國女教師四名に於て分擔集增し合計百圓を以て當期の經費預算額と爲す

（五）　各校委員は一名にて四圓五十錢を負擔募集すること

以上議決の上散會

附　記

當日斯くまで多數なる委員の會合を得たるは兼て第一集會の決議に從ひ懇切に周旋の勞を取られたる方々の功勞として我儕は永く之を記念せんとす。若しそれ本日の評議中各校の委員が深く其責任を重んじ存分の意見を發表せられ迅速果斷に前記の要綱分擔を確定するを得たるは大に當期夏季學校の爲めに祝すべく。女學運動上今後の希望に對しても甚實に好經驗を與ゆるものとして慶賀すべく。退て斯感謝を天父に歸するに至れるを念へば我儕は寧ろ意外なりしが如く中心切に主の大能を讃美して已まざるなり。時は近し願くは主の霊猶は幾重にも我儕を励まし給はんことを

明治二十七年五月十九日

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

賣捌所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

前文部大臣海軍中將
從二位勳一等子爵　榎本武揚題字

醫科大學産科學
婦人科學教授　醫學博士濱田玄達先生

醫科大學小兒科
學教授　醫學博士弘田　長先生　校閲

文部省學校衞生事項取調囑
託帝國大學大學院醫學士　三島通良先生編述

皇后陛下御覽

# はゝのつとめ

全二册
定價金五拾錢
郵稅金六錢

增補訂正第五版　美畫入日本綴美本

目錄

親の卷

第一章　妊娠　第二章　妊娠中の養生
第三章　出産　第四章　産蓐

子の卷

第一章　小兒教養法の精神　第二章　人乳
第三章　乳母　第四章　人工養育法
第五章　生齒迄の小兒教養法　第六章　生齒
第七章　生齒後夜の小兒教養法　第八章　種痘
第九章　小兒の疾病及攝生法
第十章　身體の發育智識の發達より就學兒となる迄の母の職務

女子高等師範學校長
華族女學校長　細川潤次郎先生序文

女子高等師範校助教諭
共立女子職業學校講師　寒澤振作君著

# 家政の栞

全一册洋裝
大判二百頁
正價貳拾錢
郵稅六錢

本書は尤も多數なる中等社會の婦人を標準として平易に家政上の事柄を述べたるものにて其目次は績論に於て主婦の務めの貴重なる所以を論じ二章以下時間の儉約、物品の整頓、品物の時價、貯蓄、經費、手藝、物品の保存、雇人の待遇、室內の取締、家屋の構造、廢物利用等全篇十二章に分ち詳密に辨ぜし者なり良妻淑女一閱して家政上の智識を得られんことを

高等女子師範學校長
從三位細川潤次郎君題字
中島知子著　岡田廣鶴女史挿畫

校正
# 日本の裁縫と女禮

第二版
和裝木全二册
金四拾六錢
郵稅不要

本書は縫ぬぎの初歩より衣服袴等に至るまで順序を逐ひ裁方縫方並道具の使用法まで一々圖解を以て叮嚀に談の躰に書綴尚物事にふれて女禮をも夥多の彩美書を加へて說き示し師を要せず女子の道を悉く覺る寶典なり第一版は賞品等適當とて好評を得て既に賣盡し今更に校訂再版出來せり婦女方は早く購められよ



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(女學雜誌)第三百八十二號(明治廿五年三月十五日遞信省認可)明治廿七年六月二日發兌


村木經策著

# 地久節

近刊

御眞像賀題御誕辰以來の御事歷韻文等を挿入したる極製美本にして皇后陛下御誕辰表賀の事を記したるの書也

賣捌所　東京神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店



# 文學界

第十七號五月三十日發兌

- 蟬羽子を吊ふ　孤蝶
- 惡夢　蟬羽
- 北村透谷を悼む　破蓮
- 夢見草　克水
- そゞろごと　雪影
- 狂ひのいのり　殘花
- 髑髏舞　透谷
- 流水日記　禿木
- 時文

一夕蝸牛、俳諧史傳、其他新刊

發行所　下谷三ノ輪八十九番地　文學界雜誌社

發賣所　女學雜誌社書店


## 女學雜誌定價表

| 冊數 | 定價前金 | 市外定價郵稅共 |
| --- | --- | --- |
| 一冊 | 金六錢 | 金六錢五厘 |
| 十冊 | 金五十八錢 | 金六十三錢 |
| 廿六冊(半ヶ年分) | 金一圓四十三錢 | 金一圓五十六錢 |
| 五十二冊(一ヶ年分) | 金二圓六十錢 | 金二圓八十六錢 |

一本誌購讀者は代價郵稅共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

本誌代價郵稅共郵便小爲替にて拂渡局を必らす

一ッ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事

一請取人は神田區表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。

一郵便切手代用は一割增(五厘切手に限る)にて申受候

本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書添への事


發賣所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

發行所　東京府北豐島郡王子村下十條八百五十一番地　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三




東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地秀英舍工場印刷(電話十九番)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY